

山崎 一穎



学校法人跡見学園理事長

山田徹雄学長の任期満了に伴って、山崎一穎理事長を代表とした。山崎は1938年長野県に生まれ、早稲田大学教育学部国語国文学科を経て、同大学大学院文学研究科博士課程を修了。博士(文学)。日本近代文学専攻。

山崎は1970年跡見学園女子大学文学部国文学科の専任講師となり、1978年教授に就任。その秋、学長に就任し、1989年7月までの10年余、大学改革に努めた。21世紀を生きる女性の育成を目指す社会科学系

の学部創設にあたって、1998年4月山崎が再び学長に就任し、2006年まで2期8年の任期を務めた。文学部の改組、臨床心理学科の設置、マネジメント学部の創設、大学院修士課程の設置と大学の改革に努めた。2003年短期大学部の学長ならびに学務担当常務理事に就任。2007年短期大学閉学に向けた対応に当った。跡見純弘理事長の要請により、2007年から2012年まで跡見学園中学校高等学校の校長を務め、2009年10月に跡見純弘理事長の後を継いで今日に至っている。

2008年から大学の1・2年生は埼玉県新座キャンパス、3・4年生は東京都文京キャンパスで学んでいる。山崎は理事長に就任するや、キャンパスの一元化に向けて動き出した。ガバナンス強化のために学外から理事ならびに教員監査の監事を招聘した。教職員は、直面する難題に対処することを山崎に期待している。

阿久戸 光晴



福岡女学院大学学長

高島一路学長の任期満了に伴う後任として、福岡女学院大学学長に4月1日付で就任した。任期は3年。

阿久戸光晴新学長は1951年東京都生まれ。一橋大学(社会学部・法学部)卒業、民間企業に11年間勤務の後、東京神学大学院を修了し、1990年から米国・エモリー大学(神学部大学院)留学を兼ねて聖学院アトランタ国際学校の創設と経営に従事した。1995年帰国後は聖学院大学に迎えられ、教授、チャプレ

ン、副学長、学長、理事長院長を歴任。2017年3月末の任期満了後は日本基督教団滝野川教会で牧会を続けながら荒川区芸術文化振興財団など地方自治行政を助け、また聖書共同訳編集委員もしばらく担当した。

専門分野は「人権の神学」、著書は『近代デモクラシー思想の根源』『地域力の時代』『キリスト教学校の形成とチャレンジ』など、幅広い分野で多数。新学長には、AI時代を迎えて、大学を取り巻く厳しい社会情勢の中、女子へのキリスト教人格教育を創立以来130年以上にわたって守ってきた九州の名門女子大学のさらなる発展のため、今後の方向性を力強く打ち出すことが望まれる。これまでの経験を生かしながら、学生一人一人の名前を覚え、教職員と小まめに会話して意思の疎通を図ろうとする新学長の爽やかでエネルギー溢れる人柄が、長い伝統に新風を吹き込むものと期待される。

郭 洋春 かく へんちゆう



立教大学総長

吉岡知哉前総長の任期満了に伴い、4月1日付で立教大学総長に就任。郭新総長は1959年東京都生まれ。1983年法政大学経済学部経済学科卒業後、立教大学大学院経済学研究科経済学専攻に進み、1985年同博士課程（前期課程）修了、1988年同博士課程（後期課程）単位取得退学。1988年に立教大学経済学部助手に就任し、その後、専任講師、助教授を経て、2001年教授となった。

学内では、2009年4月から2011年3月、2013年4月から2015年3月までの二度にわたり、経済学部長兼経済学研究科委員長。2011年4月～2013年3月まで、教務部長としてカリキュラム改革など大学の教学の充実に尽力した。専攻は開発経済学、アジア経済、平和経済学、研究テーマは途上国の経済開発である。民主主義、平和、環境、ジェンダーなどを取り入れた開発経済学の再構築を、主な研究活動としている。『開発経済学』『現代アジア経済論』『国家戦略特区の正体』など、この分野に関する多数の著書、論文がある。

立教大学総長就任にあたり、建学の精神に立ち返り、目まぐるしく変化する社会情勢の中で、自らの立ち位置、進むべき道を再確認し、社会に影響を与え貢献できる大学をつくりたいと抱負を述べている。

佐伯 孝弘 さへき たかひろ



清泉女子大学 学長

杉山晃前学長の後任として、本年度より文学部日本語日本文学科の佐伯孝弘教授が第13代学長に就任した。新学長は1986年に東京大学文学部国文学専修課程を卒業、1993年同大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程を修了、1996年博士（文学）の学位を取得。1993年から本学教員。学内の生涯学習センター長、入試部長、図書館長、副学長等を歴任している。日本近世（江戸時代）文学が専門。

学生時代に読んだ上田秋成の『雨月物語』にひかれ、この分野を専門に研究するようになった。近世の小説、特に浮世草子や近世前期の怪異小説・笑話等について研究している。

主な著書に『江島其磧と気質物』（若草書房）、共著・共編に『西鶴と浮世草子 研究Vol2（特集・怪異）』（笠間書院）、『浮世草子研究資料叢書』全7巻（クレス出版）、『古典文学の常識を疑う』（勉誠出版）、『浮世草子大事典』（笠間書院）等がある。

大学の経営に関しては「大学に体力のあるうちの改革」がモットーであり、学生生活が充実したものになるよう、五つの特命チームを結成し、改革に着手したところである。

忙しい仕事の合間に豆から挽くドリップコーヒーを自ら淹れるのが、目下、新学長のリラックスタイム。訪問者やスタッフにもこの喫茶店顔負けのコーヒーをごちそうしてくれ、サービス精神旺盛な学長である。

茂里 一紘



東京女子大学学長

小野祥子前学長の任期満了に伴い、4月1日付で茂里一紘氏が学長に就任した。任期は4年。

茂里新学長は1945年生まれ、石川県出身。1967年東京大学工学部卒業。同大学院工学研究科博士課程修了（工学博士）。広島大学名誉教授。専門分野は、船舶海洋工学、流体力学、工学教育。主な著書は、「大学改革」「数値流体力学」など。東京大学工学部講師を務めた後、1972年10月広島大学講師として

着任。助教を経て1987年教授に就任。同大では工学部長、学長補佐、副学長、教育研究開発センター長などを歴任し、教育研究の発展に尽力した。2003年から2011年まで広島工業大学学長。2011年から2016年まで（国研）海上技術安全研究所理事長を務めた。2012年から本法人の理事・評議員として、また本学の教育研究の中長期計画を審議する将来計画推進委員会の委員として教育改革に携わってきた。2018年は創立100周年という記念の年である。「キリスト教主義」「女子高等教育」「リベラル・アーツ教育」を継承し、次の100年に向けた第一歩を着実に踏み出すため、全学の指揮を執る。茂里学長は、変化の激しい時代にこそ女性の視点と能力が必要であると語る。女子教育への熱い思いと豊富なマネジメント力で教学改革の更なる取り組みが期待される。

ウスビ・サコ



京都精華大学学長

竹宮恵子前学長のあとを受けて、4月1日付でOusouby SACKO（ウスビ・サコ）人文学部教授が学長に就任した。任期は2022年3月31日までの4年間。

サコ新学長は1966年マリ共和国の首都バマコ生まれ。高校卒業後、北京語言大学で中国語、東南大学で建築学を学ぶ。1991年に来日し、京都大学大学院工学研究科建築学専攻で修士課程、博士後期課程を修了。博士（工学）。研究対象は「居住空

間」「コミュニティ再生」「世界文化遺産の保存・改修」など、社会と建築空間の関係性について幅広い角度から調査研究を進めている。著書に『知のリテラシー・文化』など。2001年に京都精華大学人文学部専任教員に着任した。2013年4月から2期4年間、人文学部長を務めた。2015年に同学部を再編し、3専攻を中心に、社会とつながるさまざまなプログラムを設けるなど、国内外の学生による現場調査活動を推進した。京都精華大学は1968年に開学し、2018年に創立50周年を迎えた。サコ学長は、設立当時の理念にある「人間尊重」「自由自治」を受け継ぎ、大学のダイバーシティとグローバル化を推進していく予定である。また、リベラルアーツ教育を基盤とした「表現の総合大学」作りを進めたいと考えている。

**川島明子** 園田学園女子大学学長。九州大学農学部食糧化学工学科卒。博士（農学）。専門は食品衛生学。人間健康学部長、法人評議員などを経て、15から現職。主著『食品衛生学』ほか。

**新井 一** 順天堂大学学長。79順天堂大学医学部卒業。医学博士。02順天堂大学脳神経外科学教授。08順天堂医院院長、11医学研究科長・医学部長を経て、16から現職。

**塘利枝子** 同志社女子大学女性アクティベーションセンター長、現代社会学部教授。95白百合女子大学大学院博士課程退学。博士（文学）。主著『アジアの教科書に見る子ども』など。

**武石恵美子** 法政大学キャリアデザイン学部長。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程修了。博士（社会科学）。労働省などを経て、07から現職。主著『キャリア開発論』など。

**石川康宏** 神戸女学院大学文学部教授。95京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。04から現職。著書『若者よ、マルクスを讀もう』『輝いてはたらいアナタへ』ほか。

**肥塚直美** 東京女子医科大学理事、名誉教授。女性医療人キャリア形成センター長。79東京女子医科大学大学院博士課程修了。医学博士。専門は内分泌内科学。

**兼高聖雄** 日本大学芸術学部教授。90慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。社会心理学・メディアコミュニケーション論専攻。主著『コミュニケーション学入門』ほか。

**村居昌俊** 共立女子大学図書館担当課長。ソフトウェア開発会社を経て、10共立女子学園入職。14から現職。

**岡友美子** 近畿大学アカデミックシアター事務室室長 兼 中央図書館事務部次長。83に近畿大学入職し、中央図書館に24年間勤務。その後、管理部、学生部を経て、14から現職。

**竹内康弘** 学校法人京都女子学園法人本部長。90龍谷大学文学部卒。同年京都女子学園職員、13から現職。

**板木雅彦** 立命館大学国際関係学部教授。84京都大学大学院経済学研究科博士課程後期課程中退。06博士（経済学）。00から現職。主著『国際過剰資本の誕生』など。

**寺島哲平** 常磐大学ゲーミフィケーション研究会代表、人間科学部専任講師。14に同研究会を開始。図書館ガイダンス以外にも新人教員研修会や自己紹介をゲーム化。

**竹内比呂也** 千葉大学人文科学研究院教授。11からアカデミック・リンク・センター長、附属図書館長、14から副学長（学修支援）。主著『変わりゆく大学図書館』。

**梅本 裕** 学校法人京都橘学園理事長。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。京都橘女子大学教務部長、副学長を経て、07から現職。教育方法を専攻。

**西谷 元** 広島大学副理事（SGV担当）、社会科学部研究科教授。85Mjur (Auckland)、87DipEI (Amsterdam)、82～84Harvard Law School、UC Berkeley Law School 客員教授。

池田伸子 立教大学異文化コミュニケーション学部教授。'97国際基督教大学大学院教育学研究科博士課程後期課程中退。博士（教育学）。九州大学を経て、'084月から現職。

鈴木理恵 慶應義塾大学国際センター特任講師。'09エッセックス大学大学院社会学部博士課程修了。博士（社会学）。成蹊大学国際教育センターを経て、'18から現職。

吉岡大輔 一般財団法人日本スタディ・アプロード・ファンデーションディレクター。

尾木義久 関西学院大学アドミツション・オフィサー、文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）担当 学長特命、高大接続センター次長。

佐藤正志 早稲田大学教務担当理事・政治経済学術院教授。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得退学。文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業実施責任者。

戸塚学 武蔵大学人文学部准教授。'12東京大学大学院人文社会学系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。常葉大学を経て、'17から現職。専門は日本近現代文学。

湊晶子 広島女学院院長・学長。ホイートン大学（神学修士・'80名誉博士）。ハーバード大学客員研究員、東京女子大学学長。'14から現職。'10瑞宝中綬章。主著『女性を生きる』。

春沢信哉 大阪薬科大学薬学部教授。薬学博士（有機合成化学）。'82名古屋市立大学大学院薬学研究科博士後期課程修了。'83から大阪薬科大学に勤務、'06から現職。主な研究…ヘテロ重原子の有機合成への応用と機能性分子の創製。

松野良一 中央大学総合政策学部教授。'03中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程修了。博士（総合政策）。TBSを経て'05から現職。主著『市民メディア論』など。

中村達 明治大学情報メディア部ユビキタス教育推進事務室。'00明治大学理工学部卒。放送局技術職を経て、'11明治大学入職。同年から現職。

川上哲太郎 東海大学副学長、海洋学部長、教授。'88東海大学大学院海洋学研究科博士課程後期修了。工学博士。'03東海大学海洋学部教授、'14東海大学副学長、'17から現職。

北義則 福岡大学体育学部（現 スポーツ科学部）卒業。'53福岡県生まれ。'81に陶器を扱う陶華堂を創業、'91に株式会社トーカー堂を設立し、テレビショッピングなどの通販事業を展開。自ら出演するテレビショッピングの番組は全国に放映され、独特の柔らかいセールストークにファンも多い。

脇浜紀子 京都産業大学現代社会学部教授。神戸大学法学部卒。'90読売テレビ入社。'10大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了。博士（国際公共政策）。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

**会長の動き** 2018年  
3月4日

- 3月6日(火) 第11回常務理事会に出席
- 3月16日(金) 自由民主党主催・鎌田会長講演会を開催

自由民主党の主催による鎌田会長（全私学連合・代表）の講演が開催された。「教育再生と私学振興」と題して、多くの国会議員と意見交換を行った。

- 3月20日(火) 第10回理事会、第3回春季総会に出席
- 3月27日(火) 財務省主計局に説明

連合会において、鎌田会長、村田副会長、大沼副会長が、高等教育の無償化に対する意見および新たな修学支援スキームの提言について、財務省主計局次長に説明し、意見交換を行った。

- 3月28日(水) 日本私立大学団体連合会・第115回役員会、第81回総会に出席
- 日本私立大学団体連合会「私立大学の振興に関する協議会」に出席
- 「私立大学の振興に関する協議会」を開催し、メンバーである文教関係国会議員に「新たな修学支援スキームの提言」を

説明し、理解を求めた。  
● 4月24日(火) 第1回記者懇談会・懇親会に出席  
私大連は私立大学の将来像をとりまとめ、会長をはじめとする役員による記者懇談会を開催した。



私立大学の将来構想を説明  
(会長・役員との記者懇談会)

- 4月25日(水) 公財政政策委員会に出席  
公財政政策委員会に鎌田会長が出席し、財務省主計官と意見交換を行った。高等教育政策の基幹となる私立大学の重要性を説明した。

平成30年春の叙勲（連盟事業関係者）

旭日重光章

新家 莊平（兵庫医科大学理事長）

瑞宝中綬章 佐藤 眞一（上智大学名誉教授）  
瑞宝中綬章 高橋 敏夫（拓殖大学名誉教授）  
瑞宝小綬章 市村 隆哉（日本大学名誉教授）

**『大学時報』全文検索システムとバックナンバーアーカイブ化の推進**

大学時報については、本連盟ウェブサイト内に「全文検索システム」を導入しています。また、同ウェブサイト内にデジタル版（PDFファイル）を公開しています。『大学時報』をより多くの方に有効利用していただけるよう、バックナンバーのデジタルアーカイブ化を順次進めています。2018年4月現在、第324号（2009年1月発行）から全文公開中です。



本連盟ウェブサイトの『大学時報』のページ

座談会 「私立大学の将来構想」

特集 「留学(送り出し)に伴う問題への取り組み」

小特集 「海外大学とのダブルディグリー・プログラムの現状と効果」

表紙・大学点描 東京女子大学 だいがくのたから 聖心女子大学

クロースアップ・インタビュー：

「富田 洋之さん(順天堂大学スポーツ健康科学部准教授)」

## 編集後記

◆今春、全国大学生協連合会から、前年にも増して大学生の読書時間が二極化しているという調査結果が発表された。これに呼応した訳ではないが、本学では昨年度に続き、入学式で、本や新聞と向き合う決意を求める学長式辞が新入生に贈られた。

読書と図書館利用が必ずしも議論の延長線上にあるものではない。しかし、本と向き合える環境の提供や理想空間の創出、さらにはその活用について、高等教育機関として「いま」まさに考えていかなければならない時代となっていることは間違いない。学生をはじめとするあらゆる図書館利用者の生活様態は、日々変化し続けていく。学習形態や嗜好される環境、教育手法も常に変化しているのである。

こういった中、大学図書館の最新事例は本誌で何年かごとに取り上げるべき重要なテーマである。今回の6編の原稿は、「いま」の図書館を追求する各大学の知恵と汗事絞った真剣な取り組みの好事例である。ご寄稿に感謝し、共に大学図書館のあり方を議論し追求し続けていきたいと

考える。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・関西大学総合企画室広報課長 依藤 康正)

◆小特集「海外留学体験の効果測定に対する取り組み」の企画の背景には、量から質へと重点がシフトしつつある留学プログラムの構築において、①学生自身の成長をどのように測り本人への意識付けを行うか、②増え続ける留学プログラムの評価をどのように行うか、という二つの問題意識があった。

今回寄せられた事例をみて、留学の形態が多様化していることが逆みてとれる。昨今、ますます忙しくなっている学生は、より短期のプログラムを希望する傾向があるが、海外ではオンライン教育などの拡充により、「留学」の概念にも変化があるようだ。つまり、必ずしも外国に行かない「留学」も増えているわけではないが、留学を経験した者としては、たとえ短期であっても異国に身を置いて学ぶ意義はやはり大きいと考えるし、同じように考える関係者は少なくないのではないかと。海外で学ぶ意義や成果をより実のあるものにし、さらに先の学びへとつなげるため

の工夫や試行錯誤に今後も注目していきたい。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・上智大学総務局SGU事業推進室長 中山 映)

◆クロースアップ・インタビューでは、株式会社トリーカ堂代表取締役の北義則さんにお話を伺った。

トリーカ堂は、1991年の設立以降、テレビショッピングなどの通販事業を展開し、現在も全国に放映されるテレビショッピングの番組をもっている。

これまでに、トリーカ堂は金利・手数料を無料にすることや販売する商品に関連のある商品を特典として付けるなど、次々と新しい手法を編み出してきた。しかし、こうした手法を他社にも真似されることはあっても、他社の手法を真似したことはないという。

真似をすることは、さまざまな事柄を容易に実行することができ、それ以上の進展はない。

現在、トリーカ堂は、テレビショッピング以外の次の展開を考えているという。北さんは、テレビショッピング界の先駆者であり、創造者でもあった。(日本私立大学連盟事務局 佐藤 義文)





